

平成28年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成28年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

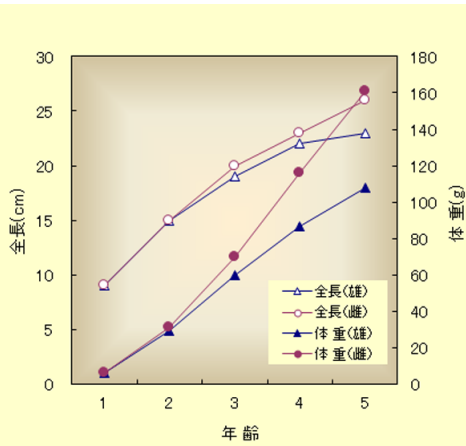
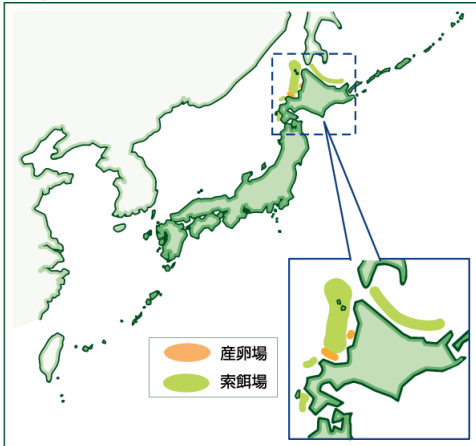
系群名 北海道北部系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命： 7歳以上
成熟開始年齢： 雄2歳（50%以上）、雌3歳（50%以上）
産卵期・産卵場： 5～9月（中心は7月）、主に奥平沖（水深60～80m）と増毛～留萌沖（水深50～60m）
食性： 成魚はイカナゴ、タラ類幼魚、その他の小型魚類、オキアミ類、クモヒトデ類、多毛類、イカ類、エビ類、二枚貝類
捕食者： 不明

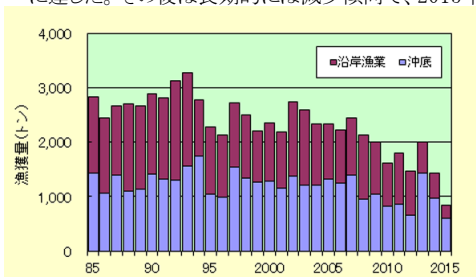


漁業の特徴

主に沖合底びき網漁業（沖底）と沿岸の刺網漁業によって漁獲される。沖底は主に9～翌年4月に索餌群を、刺網漁業は主に4～7月に産卵群を漁獲している。また、日本海に比べると、オホーツク海における漁獲量は非常に少ない。

漁獲の動向

漁獲量は、1980年代後半～1993年にかけて増加し、1993年には3,273トンに達したが、その後減少し、2015年は1985年以降で最低の846トンであった。沖底の漁獲量は、1982年以後増減を繰り返して推移しており、2015年は過去最低の594トンであった。沿岸漁業の漁獲量は、1980年代後半～1992年にかけて増加し、1992年には1,828トンに達した。その後は長期的には減少傾向で、2015年は過去最低の252トンであった。

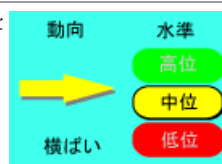


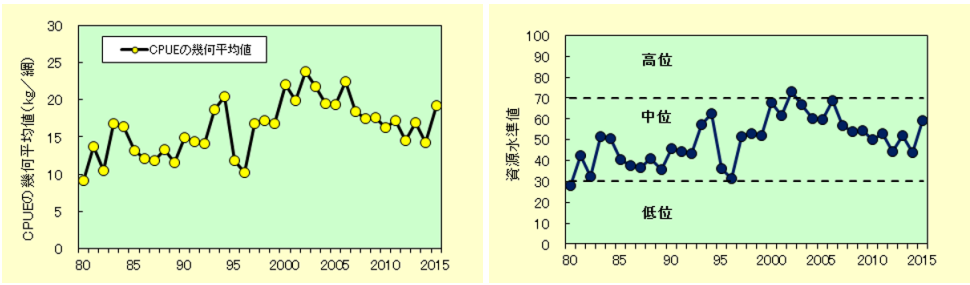
資源評価法

近年の漁獲の主体である沖底（100トン以上のかけまわし）の月別船別漁区別努力量当たり漁獲量（CPUE）の幾何平均値（以後、CPUEの幾何平均値）を資源量指標値として資源状態を判断した。幾何平均の計算においてはソウハチの有漁操業データのみを使用した。

資源状態

CPUEの幾何平均値は、1980～2002年までは増加傾向を示し、2002年には23.8kg/網となったが、その後は増減を繰り返しながら2010年代前半にかけて減少した。2015年は前年を上回る19.2kg/網であった。資源水準の基準は、CPUEの幾何平均の過去36年間（1980～2015年）の平均値（16.2kg/網）を50として各年のCPUEの幾何平均値を基準化し、資源水準値とし、70以上を高位、30以上70未満を中位、30未満を低位とした。基準化した2015年の値は59で資源水準は中位と判断した。直近5年間（2011～2015年）におけるCPUEの幾何平均値の推移から動向は横ばいと判断した。





管理方策

資源量指標値の水準および変動傾向に合わせた漁獲を行うことを管理目標とし、2017年ABCを算定した。ABC以外の管理方策として、関係漁業者間で取り組まれている、未成魚保護を目的とする全長18cm(体長15cm)未満に対する漁獲制限を継続することが望ましい。

管理基準	Target/Limit	F 値	漁獲割合 (%)	2017年ABC (百トン)	Blimit=
					親魚量5年後 (百トン)
0.9・C2015・1.07	Target	—	—	7	—
	Limit	—	—	8	—

- Limitは、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量。Targetは、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の増大または維持が期待される漁獲量。 $ABC_{target} = \alpha \cdot ABC_{limit}$ とし、係数 α には標準値0.8を用いた
- ABC算定規則2-1)により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算した
- δ_1 には0.9(本系群に適用した資源水準の定義における中位水準の推奨値)を用いた
- Ct には直近の2015年の漁獲量(C2015)を用いた
- γ_1 (1.07)は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/l)$ で計算した。kは標準値の1.0とし、b(1.15)とl(16.8)は資源量指標値の傾きと、平均値(直近3年間(2013～2015年))である

資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は横ばい
- 沖底のCPUEの幾何平均値を資源量指標値として資源状態を判断した

管理方策のまとめ

- 資源量指標値の水準および変動傾向に合わせた漁獲を行うことを管理目標とした
- 関係漁業者間で取り組まれている、未成魚保護を目的とする全長18cm(体長15cm)未満に対する漁獲制限を継続することが望ましい

執筆者: 田中寛繁・山下夕帆・船本鉄一郎

資源評価は毎年更新されます。